

→林道(16:10)

浮小屋沢

1985年6月29日

L

浮小屋沢には、中津川林道にかかる8号橋を降りて入る。すぐに小滝があり、4mの滝が2本続く。まあこんなものだろうと、先に進む。

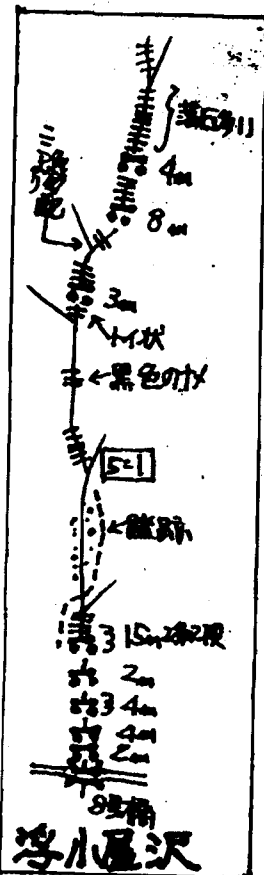
まもなく沢幅がひらけ、15mはあろうかと思われる立派な2段滝にでくわした。幸い斜瀑で、上段の左側はトイ状となっており、水は2条になって流れている。沢登りの経験の少ない高橋先生は大丈夫かなと心配したが、なかなかどうして、ワラジのフリクションを使って、あぶなげなく直登してくる。

滝の上はトイ状のナメが続き、これは意外にも当りの沢かなと思いきや、あとは二俣まで平凡な藪河原であった。水量の多い左俣に入る。

しばらくはナメまじりの河原が続くが、沢床の色は灰青色から黒に変わる。この先沢は急に勾配を増す。8mの赤い滝を越すと、上は傾斜のきついナメが続き、高度を上げるほどに落石にうまり、沢はついに藪に隠れてしまった。

(記)

[タイム] 8号橋(15:00)→二俣(15:40)→遡行終了(16:30)



黒滝沢

1985年6月23日

L

烏川林道のゲート手前に車を置き、身仕度して歩きはじめる。黒滝沢にかかる第3号橋までは20分程で着く。

8:50遡行開始。小滝をいくつか越していくと、さっそく20mはあろうかと思われるF₂にぶつかる。この沢にはこれ以上の大きさをもつ滝はなく、沢の名前にもなっている黒滝ではないかと思われる。水量はそう多くないものの、2段になって落ちる様は見事である。福島キャノン山の会の記録によると、左岸を直登できるということであるが、ヌルがついているのでいやらしい。私達は右岸の草付を

捲く。

そのあとは1~3mの小滝が続き、2段5mの滝を越えると、はじめて枝沢が左岸より入る。水量比は4:1くらいである。やがて右岸に枝沢が入ると、その上部は1~2mの小滝が時折出てくる程度となる。

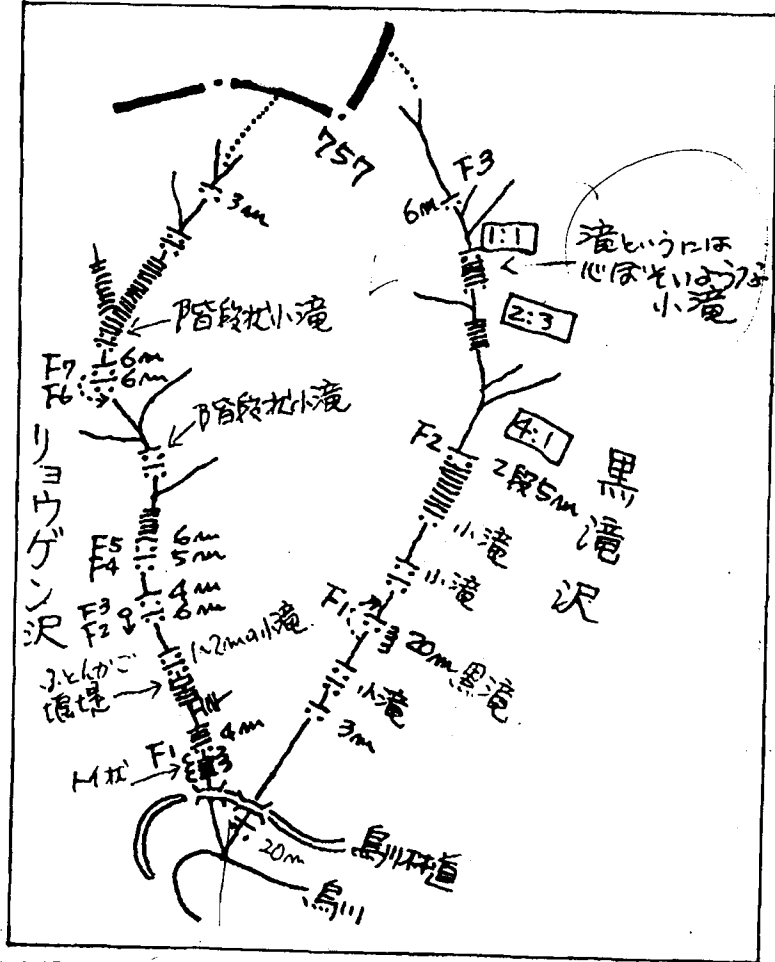
10:05 二俣に分かれる。私達は757mピークに突き上げる左俣を進む。すぐに左岸から小沢が入り、6mの滝にぶつかる。左岸を楽に直登できる。

沢は源頭の様相をみせ、15分も進むと水は濁れて沢

も終わりとなる。そう濃くもない藪を15分程こいで、757mピーク近くの尾根に出る。

(記・)

[タイム] 烏川林道ゲート(8:25)→第3号橋(8:45, 8:50)→遡行終了(10:25)→757mピーク(10:40)



リョウゲン沢

1985年6月23日

L

757mピーク西方の鞍部からリョウゲン沢への下降に入る。沢に入るまでは急斜面で、立木を利用しながら慎重に下る。

沢に入ると、最初のうちは2~3mの小滝、さらには6m級の滝と、適当に出